



confidential

「生産性向上の限界に挑む ONE HOUR CHALLENGE」のご提案

2018/11/1



はじめに

ここ最近、ニュースで聞かない日はないようになってきた労働生産性。労働生産性の向上は、一連の働き方改革の流れにおいて最重要課題とされています。

OECDデータに基づく2016年の日本の時間あたり労働生産性(就業1時間あたり付加価値)は、46.0ドル(4,694円/購買力平価(PPP)換算)で、米国の3分の2の水準にあたり、順位はOECD加盟35カ国中20位でした。それだけ、日本の組織の働き方は、生産性が低いと言えます。

労働生産性は、アウトプット/インプットで表現されます。労働生産性を向上させるためには、従業員の1時間当たりでどれだけの価値を作り出せるかを考えていくことが不可欠です。しかしながら、今の日本社会で考えられている労働生産性の向上は、残業時間の削減など、時間のインプットを減らすことに大きく偏り、本来重要であるアウトプットの向上には注意、リソースが割かれていないというのが実情です。

また、特に難しいのが、日本組織においては、組織やプロジェクトの伝統が長いものが多く、その取り組みが現場の必要性から乖離し、プロジェクトを行うことそのものが目的となっているシーンも良く見られているという点です。

手段の目的化に限らず、組織の全体の価値創造という観点から見ると、些末なことに大量のインプットが行われ、本質的なところにリソースが割かれていないという事態はあちこちで見られています。

現状、日本社会において、生産性の向上を図っていくためには、全員に生産性を高めていこうという意識はもちろん、いったいどのような営みが生産性の向上につながり、どのような営みがその低下をもたらすのかという意識、感覚を鍛えていくことが重要になります。

そこで本研修では、1時間で、コマドリ動画作りにチャレンジし、出来上がった作品と、その時間の過ごし方の2点についてフィードバックをシェアすることで、時間当たりの生産性を最大化するという意識や、感覚、その技術を高めていきます。また、単に意識や感覚を鍛えるだけでなく、経験から得られた知見を元に、実際に自分の職場での改善案についても考えていきます。

コマ撮り動画について

パラパラ漫画を動画で作るイメージのコマ撮り動画。人や物を、少しずつ動かしながら、いくつもの写真を撮影し、それをつなげていくことで1つの作品を作っていきます。

本研修で題材とするコマ撮り動画は学習教材として以下の5つの利点があります。

1. 作業が単純なため、誰でも簡単に作成できる。
2. 1時間程度で、1つの作品が完成させられる。
3. ほとんどの人が経験がないためスタートラインを揃えられる。
4. 同じリソースを使いながらも、取り組み方次第で、成果物には大きな違いが生まれる。
5. 課題の与え方次第で、その仕事のWHY、WHAT、HOWの3つの観点や、定型的な仕事、非定型的な仕事についてなど、様々な性質の労働においての生産性について意識や、考え方を鍛えていくことができる。



本ワークショップで身に付けられること

本研修、ワークショップで得られること、高められるものとしては以下のものが挙げられます。

○知識、理解

- ・生産性という概念についての理解
- ・生産性を挙げていくために捉えていくべき本質と、捨てていくべき些末なことの違い
- ・生産性を高めていくために必要なポイントと、高めるための方法、考え方

○マインド

- ・生産性に影響を与えるものを見抜く感覚
- ・生産性を高めるために適切にチームで協力、連携していくことの大切さ
- ・限られた時間、資源を最大活用しながら、最大の成果を上げていこうという姿勢

○スキル

- ・異なる強みを持っているメンバーのスキル、強みを適材適所に配置し、適切に協力しながら成果をあげていくためのコミュニケーションスキル、リーダーシップ、
- ・体験から、必要なことを学び取り、応用していく学習力

ワークショップの6つの流れ

本ワークショップでは、生産性の向上のために6つのステップで動画作りに挑戦していただきます。

【ポイント】

- ① まずは、生産性向上についての情報提供を行います。
- ② 情報提供を行った上で1ラウンド目としてまずは1つ目のテーマ設定でコマドリ動画作りに挑戦をします。
- ③ その後、各チームのプロジェクトの進め方について振り返った上で、生産性の高い働き方とはどのようなものかを意識してもらった上で、次の動画作りに挑戦してもらいます。
- ④ 前回の反省を踏まえ、2つ目のテーマで動画制作を行います。
- ⑤ 動画制作の振り返り、1回目と比べての自分達の改善度合いについての振り返りを行います。
- ⑥ 最後のまとめでは、自分の日頃の業務の進め方を振り返り、今後、意識すべき仕事の進め方について目標を立ててもらいます。



生産性向上の限界に挑む ONE HOUR CHALLENGE 1日

午前	午後
<p>1. はじめに (1) アイスブレイク (2) 本日の取り組みの狙いと流れの説明</p> <p>2. 動画作りに挑戦 (1) コマドリ動画の作り方の説明 ・使用するアプリ ・制限時間と、使用可能なツールの説明 (2) 試しに作ってみる ・コマドリ動画ならではの表現に慣れ親しむ</p> <p>3. 1時間でコマドリ動画を作る（定型労働編） (1) 決められた題材をテーマに、生産性を高めるための動き方、表現を考える (2) 撮影、編集をする</p> <p>4. 各チームの作品を発表し、鑑賞する (1) 動画のクオリティと、考えていたことで評価する (2) 優秀作品を投票する</p> <p>5. チームでの取り組み方を振り返る (1) 良かった点 (2) 今後に向けて改善が必要な点</p>	<p>6. 1時間でコマドリ動画を作る（非定型労働編） (1) 定められたテーマの中で、生産性を高めるための動き方、表現、シナリオを考える (2) 撮影、編集を行う</p> <p>7. 作品の発表会を行い、生産性をテーマに評価し合う (1) 動画のクオリティと、考えていたことで評価する (2) 優秀作品を投票する</p> <p>8. チームでの取り組み方を振り返る (1) 良かった点 (2) 今後に向けて改善が必要な点</p> <p>9. 職場の生産性を高めるために (1) 生産性を向上するためには (2) 仕事の特性に応じた対策</p> <p>10. まとめ 研修内容をふまえ、明日から職場で取り組むことを考える</p>

御見積

明細／説明	単価
ワークショップ企画登壇費	¥600,000
サブファシリテーター1人	¥100,000
撮影用機材セット貸出費用（1チームあたり）	¥10,000/チーム

※研修会場は御社でご用意ください。

※上記の金額に消費税が加わります。

※動画作りの場合は機材の準備等があるため、講師は2人名体制での実施となります。

※撮影のために1チーム当たり1台のPC機材、レゴブロックなどの準備物セットが必要になります。

※1チームは4人～5人を想定しています。

※対応できるのは最大40名とさせていただきます。40名以上の場合は2クラスに分けての実施となります。

導入事例 大手製薬会社様



年に1度のオフサイトミーティングにて複数部門が集まり実施。

主な受講者の声

- 動画撮影という初めての試みを体験し、生産性向上というテーマと良く結びつけられたとても分かりやすかった
- 説明が理解しやすく、研修内容も楽しく、日常業務に生かせると思った
- 動画で表現するというのは初めてでしたが、チームで1つのものを作成する⇒結果を見る⇒他人の評価⇒次に生かすという流れがつかみやすかった
- 時間の制約の中で、という目的はあるが、もう少し時間があると良いと思えるほど楽しかった
- 業務とは関係なくても、活かせるところがたくさんありました

■ 講師候補プロフィール 森本 康仁 もりもと やすひと

北海道教育大学卒

- 2003年 東京都小学校教員として採用。江戸川区外国語活動推進委員として、江戸川区の外国語活動カリキュラム開発に従事。
- 2012年 グローバルフォステレージ入社。フィリピンのセブ島にて、日本人に特化した家政婦育成事業に参画。フィリピン人に日本語、日本文化日本人へのサービスなどを指導するとともに、0 からオリジナル テキスト、Eラーニング作成を行う。ソーシャルメディアを使った企業ブランディング、ウェブマーケティングを担当する。
- 2013年 アシストフィリピン入社。日本人を相手に高いサービスを提供することができる介護士育成事業に参画。前職 でのフィリピン人育成の経験を活かし、日本語、日本文化、日本人へのサービスなどの指導を行う。新興国での新規事業計画案作りと立ち上げ、営業活動に従事。フェイスブックページ、1日1TEDをスタートする。LEGO®SERIOUS PLAY® のトレーニングを受講。
- 2014年 Banilad Science Club立ち上げ。21世紀型スキル習得をテーマに探求を行う。新興国の子供たちに上質な科学教育 を届けることをミッションに、科学教室を立ち上げる。ブロックを使って、組織の問題解決のコンサルティングに従事。
- 2015年 ミテモ株式会社に入社 チームビルディング、組織開発、グローバル人材育成フィールドワーク、次世代リーダー育成プログラムのカリキュラム開発、ワークショップのファシリテーションに多数関与する。

- 資格 certified facilitator of LEGO® SERIOUS PLAY® method and materials
小学校教諭一種免許状
中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
ハテナソ（質問作りの技法）ファシリテーター、
サーチインサイドユアセルフ（SIY）コアプログラムトレーニング修了
システム思考トレーニング修了

- 分野 ものづくり研修、リーダーシップ研修、イノベーション研修、理念策定、理念浸透、Japanese Kizen研修、
チームビルディングワークショップ